

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」
(第4回選定)応募団体

取組事例集

岡山県版



平成30年3月
中国四国農政局

発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（平成29年度）で4回目となります。

今年度は、中国四国農政局管内で172地区の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区（全国31地区）が選定されました。

さらに、今年度の応募を機に、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として17地区選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>

平成30年3月
中国四国農政局農村振興部

目 次

| | |
|-----------------------------|---|
| ○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について …… | 1 |
| ○ 応募団体一覧 …… | 6 |
| ○ 応募団体位置図 …… | 7 |
| ○ 応募団体の取組事例 …… | 8 |

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第4回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村の宝」（第4回選定）では、平成29年6月15日から9月11日までに、農山漁村活性化の取組として全国から844地区（管内からは172地区）の応募があり、10月24日に首相官邸で開催された第2回有識者懇談会において31地区の優良事例が選定されました。

11月22日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、11月23日に「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区が選定され、特別賞のフレンドシップ賞（インバウンドに対応した農山漁村滞在型旅行（農泊）に取り組んでいる優良事例）に徳島県三好市の「大歩危・祖谷いってみる会」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

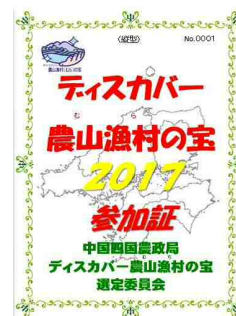
2. 中国四国農政局による取組

今年度の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第4回選定）の応募を機に、中国四国農政局では、管内で応募のあった172地区の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、平成29年11月、中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定委員会を開催し、17地区を選定しました。

また、中国四国農政局管内での「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の応募喚起や他地域への横展開を推進するため、今年度新たに応募全地区（172地区）に対して参加証を発行するとともに、選定地区（17地区）に対して選定証の授与及びロゴマークを進呈することとしました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
ロゴマーク



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
参加証

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第4回選定））

大歩危・祖谷いってみる会（徳島県三好市） 特別賞受賞(フレンドシップ賞)

- 道路網の充実で通過点となることを危惧し、地域全体の情報発信を開始。
- 香港やシンガポールの裕福層を中心にインバウンドの誘客に行政と連携して取り組む。
- 地域資源を活かしたイベントやツアーを企画、実施。
- 郷土料理の発掘、新名物や土産品の開発にも取り組む。



海外でのプレゼンテーションの実施

わかさ29工房（鳥取県若桜町）

- 捕獲数が増えている鳥獣を里山の恵みとして特産化を推進。
- 全国のシェフを招待し、安心安全なジビエや豊かな自然をPR。
- 処理施設の衛生管理の向上を図るため、県版HACCPを取得。
- 保冷車で集荷することで、夏季や遠隔地にも対応。猟師が持ち込んだシカは全頭受け入れ。



安心安全なジビエをPR

飯南町注連縄企業組合（島根県飯南町）

- 大しめ縄の技術継承が、有志による取組では困難になり、企業組合を設立。
- 大しめ縄の受注のほか、正月飾り等の小物の作成も実施。
- 伝統を継承しつつ、活動費や雇用の場を確保。
- 大しめ縄の制作現場を外国人はじめ一般に公開し、しめ縄作りの体験も実施。



しめ縄づくり体験

株式会社 Archis（山口県山口市）

- 地域活性化のために始めた米づくりと名水百選の水を活かし、日本酒を醸造。
- 世界の裕福層に認められるためのブランド戦略により、世界へ発信。
- プレミアム感の創出などにより付加価値の向上を図る。
- 古民家を地域のコミュニケーションの拠点として再生。



海外での日本酒プロモーション

「四国の右下・魅力倍増」推進会議（徳島県美波町）

- 徳島県南部地域の知名度向上のため、1市4町が連携。
- 「南阿波」を冠した「南阿波グルメ」を開発。
- 「四国の右下」食の博覧会の開催などにより、情報発信。
- イベントに合わせて販路拡大のためのマルシェを開催。



イベントでのマルシェの開催

日高村オムライス街道推進プロジェクト（高知県日高村）

- 特産のトマトと地元のお店で供されているオムライスを繋いだ活性化を実施。
- キャンペーンやイベント出展、シェフの料理教室等を実施。
- サイクリングコースやレンタサイクルの整備、外国語パンフレットの作成にも取り組む。
- JAが新規就農者を育成。トマト生産量が拡大し、出荷場も整備。



シェフの出張料理教室

(2) 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

大江ノ郷自然牧場グループ有限会社ひよこカンパニー（鳥取県八頭町）

- 体験スタジオを設け、バームクーヘン作り等の食育体験や、子供対象の飼育体験、パティシエ体験等のお仕事体験を実施。
- 自社生産の鶏卵のほか、地元農家の野菜や自社の廃鶏を有効活用し、鶏肉ハム・ソーセージや総菜類、卵スイーツ等の食品製造を行い、高付加価値商品として販売。



体験スタジオ（パティシエ体験）

株式会社日南シルクファーム及び日南物産株式会社（鳥取県日南市）

- トマトの契約栽培を進め、山陽・関西方面への販路拡大、地元市場への販売量増加を目指す。
- 地元高校や業者、NPO法人等と連携し、ドレッシング等の商品を開発。今後は障がい者施設との農福連携も計画。
- トマト・大豆・イチゴ等の栽培ほ場での都市住民との交流。



島根大学との交流

窪田ふるさと会（島根県出雲市）

- 雑草対策として放牧した羊の羊毛加工を行い、マフラー等の製品を販売。毛刈り体験等を通じて、児童や地域内外の住民との交流を推進。
- 地元産木炭を活用した川の水質浄化や子供の環境学習を実施。
- 環境保全型農業への取組や大規模ハウスでの野菜の生産など、中山間地域での農業経営の多角化を推進。



羊とのふれあい体験

おおだ一日漁推進協同組合（島根県大田市）

- 統一デザインロゴ、ポスターの作成や一日漁カレンダーの配布等によるブランド価値と認知度を向上させる取り組み。
- 官民一体で「一日漁ブランド推進協議会」を立ち上げPR。
- 小中高校生を対象に、一日漁の魚を使った料理教室の開催や学校給食と連携した魚食普及。また、伝統漁法を題材にしたDVDを制作しPR。



地元の魚を利用した食材調理実習

農業生産法人（有）岡山県農商（岡山県岡山市）

- 青ネギ、黒豆、ミニトマトの栽培・出荷において一連の作業工程における多様な単純作業を分担して障がい者の混乱を防止。
- 障がい者の正式雇用に向けた職業実習の受入。
- 耕作放棄地の活用による農業生産活動を通じ、障がい者の更なる雇用拡大と地域活性化を推進。



障がい者による青ネギの洗浄

里山デイズ（岡山県美作市）

- 地域と連携した移住促進ツアー、岡山大学と連携した新入生研修、東粟倉観光協会と連携した観光ツアーを実施。
- 農家民宿を活用した宿泊を伴うイベントの開催。
- 雑穀のアワの文化や茅場の活用、修験道である後山など、地域独自の伝統・文化を継承するため、体験会を開催。



里山案内ツアー（アワの栽培体験）

早島農業体験協議会（岡山県早島町）

- 築約200年の古民家を改装した滞在型施設『岡山ゲストハウスいぐさ』の開業に伴い、インバウンドの受入れを開始。訪問者に「い草」の手織り等の体験機会を提供。
- インターネット（海外向け宿泊サイト）を活用した外国人観光客向けの情報発信。
- 経験者からノウハウを学び、町内で「い草」を栽培。苗の植付や刈取などを農業体験としてイベント化。



インバウンドの拡大
(い草ワークショップ)

川西自治連合会（広島県三次市）

- 農家民宿・民泊、自然体験塾、子ども長期キャンプ等のグリーン・ツーリズムや近隣の観光農園での農業体験の取組と連携して都市農村交流のための拠点を形成。
- 平成29年にコンビニと産直市、食品加工販売、軽食・交流スペース等の生活拠点として、複合施設「川西郷の駅『いつわの里』」を設置。



郷の駅開業イベント

世羅高原6次産業ネットワーク（広島県世羅町）

- より深く地域を知ってもらうため、農家民宿数の増加目標を設定し、民宿開業に向けた家屋の改修や研修を実施。
- 新たな土産品開発のため、菓子製造工場を整備するとともに、会員へ開放。
- 会員のアイデアで、米とぶどう、ワインを使ったサブレ「Serariz(せらり)」や、米と果実を使ったグラノーラ「SERANOLA(せらのら)」を製造・販売。



農家民宿体験ツアー

大道理夢求の里交流館（山口県周南市）

- シバザクラの植栽は、都市住民をボランティアで募集、デザインは市内のデザイン専門学校の学生からコンテストで採用。
- 平成27年に、地元の主婦により農産物加工グループ「ほたる工房」を設立し、地元産食材を使った手作り弁当「まんかい弁当」を販売。
- 平成27年から、更に地域に密着した活動展開とするべく、交流館を地元住民が管理・運営。



棚田に植栽されたシバザクラ

河内谷土地改良区（徳島県三好市）

- 地域の子供達（芝生小学校、王地小学校）を対象とした歴史継承、保全活動の実施（「三村用水物語」の現地見学、学習、用水路周辺の草取り、清掃活動）。
- 三村用水物語パンフレット作成等による歴史継承、PR や三好長慶武者行列祭りへの協力（沿道の水路清掃）、三村用水記念碑の整備等。



小学校現地見学・学習活動

五郷里づくりの会（香川県観音寺市）

- 地区の歴史・地理等を説明しつつ散策し、伝統料理でもてなす里山歩きツアーを実施。
- そば打ち体験や人気の「コンニャク」づくり等、地元の自然や農産物を活用した各種イベントの開催。HP や SNS での情報発信。
- 平成25年に地域活性化のシンボル、伝統文化の継承施設「五郷水車」を復活。平成27年に活動拠点「あずまや」を併設。



里山歩きツアー

大地と語り合う会（香川県三豊市）

- ボイセンベリーや野菜栽培は、減農薬または栽培中農薬不使用で取り組む。
- 定期的な勉強会や情報交換を通じて、地域の環境に適した施肥設計を完成。
- ボイセンベリーの冷凍果実、100%果汁、ジャムなどの加工品を出荷販売し、加工品の残渣も化粧品等の原料として販売。
- 新たな加工場、直売所兼カフェを建設。



ボイセンベリーの加工品
(果汁・ジャム)

丹原もぎたて倶楽部（愛媛県西条市）

- 交流イベント「丹原もぎたて祭」で、子供の農業への関心を高める取組としてトラクター試乗体験等を実施。
- 地域農業の伝統継承を図るため、地域特産の「愛宕柿」の干し柿づくりの出前授業等を実施。
- 地元産果実を使った加工品の開発・製造、移動販売車等による地域密着型スイーツ等の販売や地元農産物飲食の場を提供。



出前授業（干し柿づくり）

企業組合遊子川ザ・リコピンズ（愛媛県西予市）

- 廃棄されていた規格外トマトを利用して開発した自家製トマト酢をベースにした商品の製造・販売。
- 農家レストランを運営し、旬の地元産野菜、トマト加工品を使ったメニューを提供。
- 地域で開催される各種イベント（盆踊りや秋祭り）に、ピザ作りなどで参加し、地域活性化に貢献。



遊子川トマトを使用した加工品

いしはらの里協議会（高知県土佐町）

- 住民出資の「合同会社いしはらの里」を設立し、地域住民が自ら生活店舗・ガソリンスタンド、直販所「やまさとの市」を運営。
- 農産物の直販、加工品の開発・販売、直販イベント『まるごと石原よさく市』の開催。
- 地域での集いの場づくりや、子どもサマースクール、ライトアップイベント等の交流イベントの開催。



住民の出資により運営する
生活店舗

公益財団法人三原村農業公社（高知県三原村）

- 農業公社が中心となり、ゆず栽培面積を拡大。
- 後継者育成のため、研修生を受け入れ、ゆずやブロッコリー等の栽培技術や農業経営について実践指導。
- 農業所得向上のため、自動選果機を導入し、青果出荷率の向上を図るとともに、加工用ゆずの販路拡大を展開。
- 高齢化ゆず農家の農業支援体制の構築。



ユズの苗木植付作業